

大学等名	日本福祉大学
教育プログラム名	日本福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

日本福祉大学数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム

目的

「数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム」では、自分たちの将来における数理・データサイエンス・AIとの関わりを意識させ、これから学ぶ専門的知識と合わせて、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

学習成果

数理・データサイエンス・AIの現状についての理解と、様々な分野において日々更新されている情報を調査・整理することができ、それらの知見をもとに自らの将来就く仕事への活用についての予測を立てられるようにする。

科目構成

全学部必修もしくは全員履修科目（2単位）

社会福祉学部
経済学部
教育・心理学部
スポーツ科学部
国際学部
看護学部
健康科学部*
工学部

情報処理演習Ⅰ

※修了要件：「情報処理演習Ⅰ（2単位）」を取得すること

情報処理演習

※修了要件：「情報処理演習（2単位）」を取得すること

社会で起きている変化や、これからの社会に関して学び、自らの将来就く職業での活用について考える。
 情報を利用する側と提供する側の両側に立ち、気をつけなければならないことについて理解する。
 データを元に新たな知見を得て、それを他者にわかりやすく示す。

導入

基礎

心得

健康科学部*
 （福祉工学科情報工学専修のみ）

情報処理

※修了要件：「情報処理（2単位）」を取得すること

*健康科学部リハビリテーション学科介護学専攻、福祉工学科情報工学専修は2025年度入学生から学生募集を停止

プログラム内容

- Society5.0により、社会にどのような変化が起こるのか、それにより、自分たちの生活がどのように変化するのかについて理解するとともに、数理とデータサイエンス、AIとの関係性について考え、自らが目指す将来への活用について学ぶ。
- データを元に改革しようとしている現場とデータサイエンティストとの関係などをもとに、自分たちがどのようにデータと関わり、どのように提案していくのかについて学ぶ。
- データ・AIを利用する側と、提供する側の両側から自分を捉え、問題を起こさない、身を守るための心構えについて理解する。
- 得られたデータをどのように処理するのか、どのように表現するのか、自らの伝えたい想いと事実を元にデータを利用するための方法について学ぶ。
- 大学の特性上、アクセシビリティとAIに関する話題については、身近なものである。普段、何気なく恩恵に預かっているそれらの機器やシステムに関する理解を深め、より最適な利活用の方法を学ぶ。

プログラムの特徴

- 本学では、聴覚障害者への配慮や、何度も見直したい学生のため、伝えるべき内容に関して全て映像教材を作成して提供している。
- 映像教材で学習した内容について、課題を取り組み、次回の授業において活用、実践する反転学習を実施している。
- 自分たちの分野や将来像に合わせて理解を深めてもらうため、各単元の終了後には、それまでに学んだ内容について改めて自分たちで調査・整理・共有・発表（もしくはレポート報告）する回を設けている。

実施体制

- プログラム運営責任者：日本福祉大学全学教育センター長
- プログラムを改善・進化させるための体制：日本福祉大学全学教育センター教員会議
- プログラムの自己点検・評価の体制：日本福祉大学全学教育センター教員会議